

他力

「住職便り」



第29号（令和四年十二月）

専徳寺住職 弘中満雄

【ネタとシヤリ】

お寿司すしの用語で「シヤリ」をご存じですか？
そうです、寿司飯すしめしです。

この「シヤリ」は元々インドの言葉、仏教用語で「骨」を意味する「シヤリ」からきているそうです。髑髏どくろの別名「シヤリコウベ」とか、「仏舍利ぶつしやり」の「シヤリ」です。



寿司ネタ（魚肉）を支える白い寿司飯。同じく肉を支える白い骨から着想をえて寿司屋さんの符丁ふちよう（業界用語）になったのかもしれない。シヤリとネタの絶妙のバランスのお寿司。私は大好きです。

【舍利塔】

今から二千五百年前、お釈迦さまは80歳で今生を終え、涅槃ねはんに入られました。

涅槃の後、火葬をして、残ったお釈迦さまのお遺骨「舍利しやり」は、平等に八等分されました。そしてインド各地に「仏舍利塔ぶつしやりとう」（舍利塔しやりとう、ストゥーパとも）が建てられます。これが仏教のお墓の原点です。ちなみに日本の「三重塔」「五重塔」はこの舍利塔を意味します。

舍利塔はお釈迦



さまを拝むと共に、

生前、お釈迦さまが説いてくださったみ教えを聞く場所でもあります。「舍利しやり」は骨であって、ただの骨ではないのです。

【お墓の意味】

宗教によって「お遺骨」の意味は様々です。魂（御霊）がやどっているもの、生前の思いが残っているもの。悪い事がおきないよう大切にまつるもの等。

しかし仏教の場合、お遺骨やお墓は、「舍利（塔）」と同じ意味があります。故人のいのちを支えていたお遺骨を通して、故人との思い出やご恩をかみしめ、故人が人生の支えとしたお釈迦さまのみ教えを、今度は私が聞く場所なのです。

浄土真宗のお墓は、その表に「南無阿彌陀仏」と書くように、阿彌陀様のご本願を聞く場所です。故人は天国でも冥土でもなく、お浄土で尊い仏さまになっておられるというお話です。そして他ならぬこの私も煩惱まみれのまま、お念仏一つで、お浄土へ参らせていただきます。

【納骨堂】

先月から専徳寺は納骨堂の建設が始まりました。来年七月が完成予定です。



「お墓参りが難しくなってきました。」そんな多くのご門徒の声にこたえていきたいと思えます。

専徳寺をあずかる住職として、この納骨堂をご縁に、いよいよお寿司のように念仏の教えを味わい喜ぶ方が現れる事、法座へお参りしてお念仏申すご門徒もんとが、ますます増える事を願うばかりです。